

カイガラムシの防除を徹底しましょう！

～防除適期予測（全域対象）～

6月24日（土）～7月9日（日）

■柿に寄生するカイガラムシは、防除が難しく果実汚染へとつながります。地域ぐるみで防除を徹底し、品質の良い原料柿の生産に努めましょう。

■フジコナカイガラムシの防除対策

防除のポイント

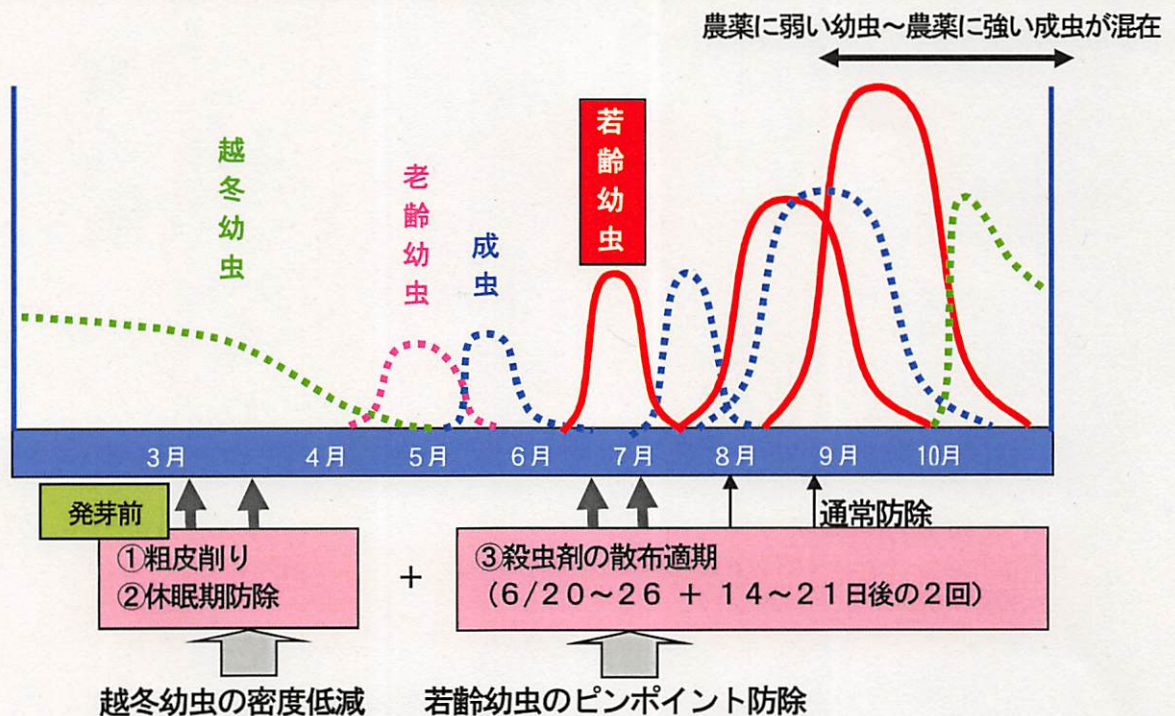
① 第1世代幼虫期が防除適期

薬剤の効果は若齢幼虫に対して高いので、防除適期をのがさないようにします。

第1世代幼虫ふ化直後である6月20～26日を中心に1回目の防除を行い、14～21日後に2回目の防除をします。老齢幼虫や成虫が混在する8月以降は防除効果が劣ります。

② 散布ムラをなくし十分な液量で！

粗皮間隙、ヘタ下、葉の重なった果実表面など薬液が届きにくい場所に多く寄生するため、散布ムラがないよう十分な薬量で、ていねいに散布しましょう。散布前に徒長枝の整理も重要です。



(参考) かきのカイガラムシ類(フジコナカイガラムシ) に対する登録農薬の一例

(平成29年6月1日JPP確認)

農薬名	使用濃度	使用回数	使用時期	備考
スプラサイド水和剤	1,500倍	3回以内	収穫30日前まで	殺虫剤(有機リン系)
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	3回以内	収穫前日まで	殺虫剤(ネオニコチノイド系) 蚕毒に注意

散布液量は両方とも200～700g/10a、使用の際は最新の登録内容を確認してください。

<裏面も参照>

■円星落葉病の防除を徹底しましょう！

●円星落葉病の伝染源である子う胞子は、5月末～7月上旬にかけて飛散します。病徴が現れるのは秋になってからですが、今のうちに防除をしておく必要があります。

防除のポイント



円星落葉病病斑



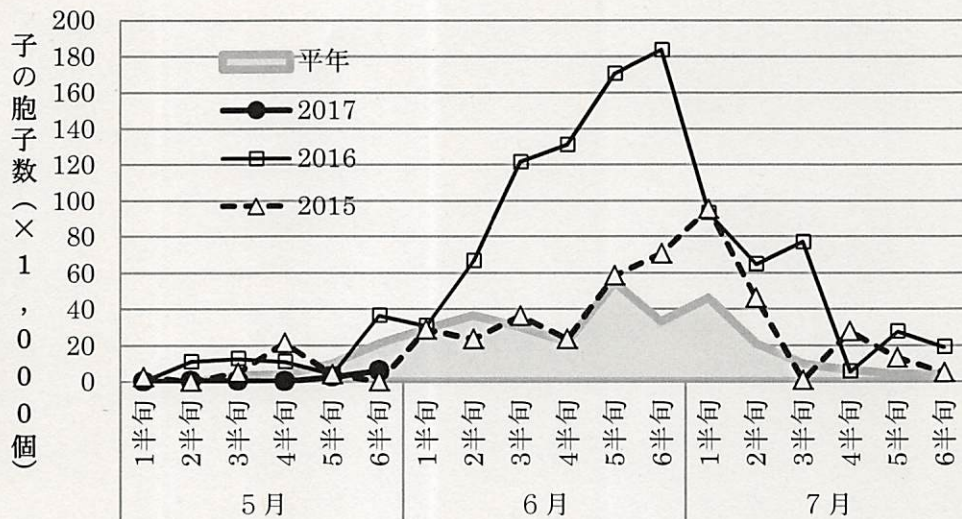
多発園の様子(10月上旬)

①6月下旬に病斑形成阻害効果の高い薬剤を散布する(下表)

病斑形成阻害効果の高い薬剤で防除をおこないます。耐性菌の発生を抑制するため、スコア顆粒水和剤、ブローダ水和剤の使用は年1回とします。

②秋に落葉処理をする

落葉した葉は唯一の越冬伝染源です。落葉は埋設または土壌にすき込み、翌年に伝染源を持ち越さないようにしましょう。



円星落葉病の子う胞子飛散状況 (南信農業試験場調査結果より作成)

(参考) かきの落葉病に対する登録農薬の一例

(平成29年6月1日JPP確認)

農薬名	使用濃度	使用回数	使用時期	備考
スコア顆粒水和剤	3,000倍	3回以内	収穫前日まで	殺菌剤(EBI剤)
ブローダ水和剤	500倍	2回以内 (含めて)	収穫45日前まで	殺菌剤(EBI剤+マゼブ)
ジマンダイセン水和剤	600倍			蚕毒に注意
オーソサイド水和剤80	1,000倍	5回以内	収穫7日前まで	殺菌剤(マゼブ)

※散布液量はすべて200~700ℓ/10a

※農薬を使用する際は、最新の登録内容に従って使用してください。